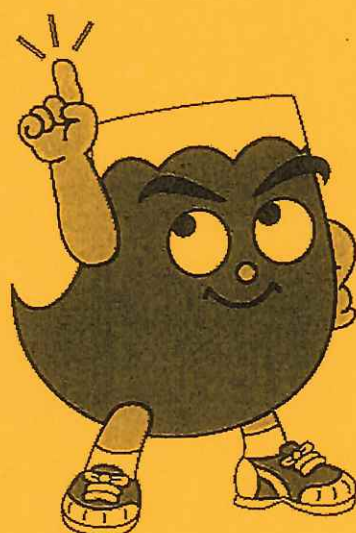


危機管理マニュアル



令和8年8月

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会

「わかふじスポーツ大会」危機管理マニュアル

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会

I わかふじスポーツ大会開催時の危険の予知・予測、未然防止に向けた取り組み

- 1 公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会(以下、協会という)は、過去の大会の状況や通知等を参考に、大会中に起こりうる危機の予知・予測に努める。また主管競技団体との打合せの際に課題等を確認し安全な大会開催に努める
- 2 協会は、主管競技団体・大会参加選手・参加団体や市町福祉担当者等から多くの情報を集め、課題の早期発見及びその解決に努める
- 3 協会と主管競技団体は、大会会場施設管理者との打合せ及び施設の事前調査を行い、危険箇所や AED の保管場所、消火器、非常扉等の把握に努める
- 4 把握事項について、必要に応じ主管競技団体・大会参加選手・関係者へ伝える
- 5 協会は、大会が土・日・祝日等休日に行うことから会場所在地域の緊急当番医を確認し、都度一覧にする
- 6 協会と主管競技団体は、大規模災害や事故が発生した場合や荒天時の競技中止等の緊急連絡体制を確立しておく
- 7 協会は、大会参加選手及び役員等に対して傷害保険に加入する
- 8 「南海トラフ地震臨時情報（調査中）（巨大地震注意）（巨大地震警戒）」及び「南海トラフ地震関連解説情報（定例発表外）」が発表された場合の対応について予め協会と主管競技団体及び利用施設管理者で確認する
- 9 新型コロナウイルス感染症について
静岡県は令和 6 年 4 月 1 日から季節性インフルエンザと同様に通常の医療提供体制となった

* 国の考え方に基づく対応

項目	対応
マスクの着用	個人の判断
手指衛生、換気	推奨
「三密」の回避、人と人との距離	「三密」回避を推奨
入場時の検温	実施しない

- 10 熱中症予防に配慮した開催方法を主管競技団体と検討し健康や命を守る対策を講じる

(1) 大会参加選手・関係者への事前の注意事項（共通）

ア 交通事故防止

大会会場への行き帰りにおいて、交通マナーを順守し事故防止に努める

イ 健康管理（一般的事項 熱中症予防を含む）

- ① 大会前日は睡眠をしっかりと取る
- ② 大会当日は朝食をしっかりと摂る
- ③ 準備運動を必ず行う

- ④ 飲料や帽子等の暑熱対策グッズを各自持参し大会開催中は熱中症の予防と対策を行う
- ⑤ 休憩と水分・塩分補給をしっかりと行う
- ⑥ 着替え・送風器具・冷却剤等で体温調整を行う
- ⑦ 大会開催中の怪我や体調不良になった場合は、引率者または大会役員に知らせる
- ⑧ 体調が悪い場合は、競技に出場しない
- ⑨ マスクの着用は個人の判断とするが、着用する場合は適宜外したり新しいマスクに替えたりする。

ウ 施設の利用

- ① 貴重品は個人で責任を持って管理する
- ② 喫煙は指定の場所で行う

エ 貴重品の管理

- ① 貴重品は個人で責任を持って管理する
- ② 紛失の場合も協会・主管競技団体及び会場施設管理者は責任を負わない

オ 中止連絡

- ① 警報発令・荒天等で競技を中止する際の連絡体制を確立しこの連絡網により行う
- ② 大会当日等、警報発令・荒天等で各主管競技団体との協議に基づき、競技を中止又は一時中断する場合があることを周知する

(2) 競技中等における注意事項(共通)

- ① 盗難や盗撮等犯罪被害防止のため、周知のアナウンスや大会役員等が会場見回りを行う。体調不良者がトイレ等にいる可能性に留意する。
- ② 不審な行動をとる者には会場見回り者が複数で対応する。声かけを行い退去を求める等の措置を行う
- ③ 緊急時に備え、救急薬品、保温用毛布、補給用水分等を準備する
- ④ 大会参加選手の保護者・引率者・団体競技チーム責任者等に、大会参加選手の行動や健康状態の把握に努めるよう注意喚起する
- ⑤ 大会参加選手等に体調不良を感じた場合には、早めに看護師や大会役員等に伝え指示を仰ぐ。熱中症については、⑦熱中症の予防、⑧熱中症発生時の対応、参考資料等により対応を事前に確認しておく
- ⑥ 競技中の天候（降雨・雷・強風・猛暑など）の状況により、競技の継続、中断、中止等の対応を主管競技団体と健康や命を守ることを第一に協議し決定する。

開催地区において降雨・雷・強風・竜巻の警報が発令された場合、または雷鳴や積乱雲接近等の予兆があった場合には、活動を停止し直ちに安全な場所に退避するよう対策を講ずる。情報収集し活動再開は慎重に行う

《気象情報の入手方法の例》

- ・ SIPOS-RADAR（サイポス・レーダー） 静岡県 ・ 気象庁ナウキャスト
- ・ 環境省 熱中症予防情報サイト ・ LINE 公式アカウント「環境省」

暑さ指数（WBGT）が 31 度以上等の場合は、原則として大会を中断又は中止する

環境省の熱中症予防情報サイトに掲載される暑さ指数（WBGT）の予想値を確認し、競技中にタイムテーブルを変更することもある

暑熱環境下での開催が予想される場合には、予め主管競技団体と対応方針（暑さ指数（WBGT）計測、実施判定及び判定関係者、暑熱対策）を検討しておく。

熱中症予防運動指針

WBGT ℃	湿球温度 ℃	乾球温度 ℃		
31	27	35	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
▲	▲	▲	嚴重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分を補給する。暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28	24	31	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
▲	▲	▲	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
25	21	28		
▲	▲	▲	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。
21	18	24		
▲	▲	▲		

1) 環境条件の評価にはWBGT(暑さ指数とも言われる)の使用が望ましい。

2) 乾球温度(気温)を用いる場合には、湿度に注意する。湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指針を適用する。

3) 熱中症の発症のリスクは個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。運動指針は平均的な目安であり、スポーツ現場では個人差や競技特性に配慮する。

※暑さに弱い人: 林刀の扱い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など。

出典：公益財団法人日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」

⑦ 熱中症の予防

協会は、熱中症指数計のほか緊急対応用の水や経口補水液、体温冷却用の物品等を準備する

主管競技団体と相談し、日射を遮る場所に救護コーナー等を設ける

暑さ指数（WBGT）の測定や環境省の熱中症予防情報サイトで予測値等の確認を行い、対応方針にそって暑熱対策を講ずる。状況に応じて主管競技団体と協議して休憩や水分補給時間を追加したりプレー時間を短縮したりするなど、参加選手等の熱中症予防に努め健康と命を守る

障害別や競技別の対策は「パラアスリートのための熱中症予防 Q&A」（日本パラスポーツ協会）等を参考にする

令和7年度わかふじスポーツ大会 暑熱対策の例（屋外競技・屋内競技）

- ・ 守備が20分以上続いたら主審が一旦中断し給水タイムを設ける。
- ・ 暑さ指数28度以上の場合は給水タイムを入れる。
- ・ 試合前に審判員が体調確認し、試合中にも水分補給と体調に関するアナウンスをする。
- ・ 監督・コーチに暑熱対策を促すとともに、全体に対して水分補給の注意喚起を随時行う。
- ・ 開会式で水分補給及び体調管理、試合中の体調申告を選手、保護者等に呼びかける。
- ・ 控えテントを設置する。
- ・ 競技会場及び諸室ではエアコンを使用する。

参考資料



障がい別に暑熱対策で心がけることは何ですか？



障がいごとで以下の対応があります

頸髄損傷 脊髄損傷

頸髄損傷者は、交感神経障害のため体温が上昇しても汗をかけません。環境温に依存して容易に深部体温が変化します。頸髄損傷者で頭部に発汗がある場合は自律神経過反射が生じている可能性があります。血圧をチェックし、冷房のかかった部屋に長く留まると反対に体温が落ちるため気をつけましょう。脊髄損傷者は障がいレベルに応じて発汗が生じます。泌尿器系の薬剤の中に発汗を抑える作用があるものが含まれますので注意しましょう。

脳性麻痺

脳性麻痺者は、発汗や皮膚血流による熱放散の仕組みは健常者と変わりませんが、不随意運動や痙攣があるために、健常者と比較すると安静時代謝が高くなります。炎天下での長時間の競技や練習では深部体温上昇を増悪させます。現場では強度が高かつ長時間のトレーニングを行うことは推奨できません。夏季にはこまめな水分補給を行いながら、練習は時間を区切りながら行う必要があります。

切断

下肢切断者では走っている時のエネルギー効率が悪くなるため、仮に健常者と同じ練習をしても余計に熱産生が増えます。さらに切断者では体表面積が減少し（片側大腿・下腿切断でそれぞれ20%、10%減少）、熱が体から逃げにくくなります。そのため、他の障がいのある選手に比べるとより汗をかいてしまいます。脱水に陥りやすいため十分な水分補給をしてください。

知的障がい

皮膚血流を増やし、汗をかく能力は健常者と同じです。しかし、気温や湿度に応じて服を脱いだり着たり、水分を補給したり、練習の量やペースを変えるようなことを自身で調節できない場合がありますので、注意してください。

視覚障がい

自律性体温調節反応は、障がいのない者と同等と認識されます。時に皮膚の色素が欠損しているタイプの選手では、日焼けにより汗を作る汗腺が障害される、という報告がありますので、注意してください。

出典：公益財団法人日本パラスポーツ協会「パラアスリートのための熱中症予防 Q&A」

⑧ 熱中症発生時の対応

熱中症を疑う症状が見られた場合は、速やかに涼しい場所へ移動し、身体
の冷却、水分・塩分補給、医療機関への搬送など、適切な応急処置を行う
(参考資料「熱中症の応急処置」)。救急車の要請等は、「Ⅱ (1) 事故発
生からの対応のポイント」に準じて行う

軽いと思われる症状であっても、本部や救護コーナーに連絡し該当者の症
状や競技復帰について看護師と相談する

- ⑩ 水泳競技においては、競技前後、休憩中等に排水溝などの施設の点検を行
い、プールの最浅・最深部分に水深を明示する等の安全対策を講じる

参考資料

熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。
落ち着いて、状況を確認して対処しましょう。
最初の処置が肝心です。

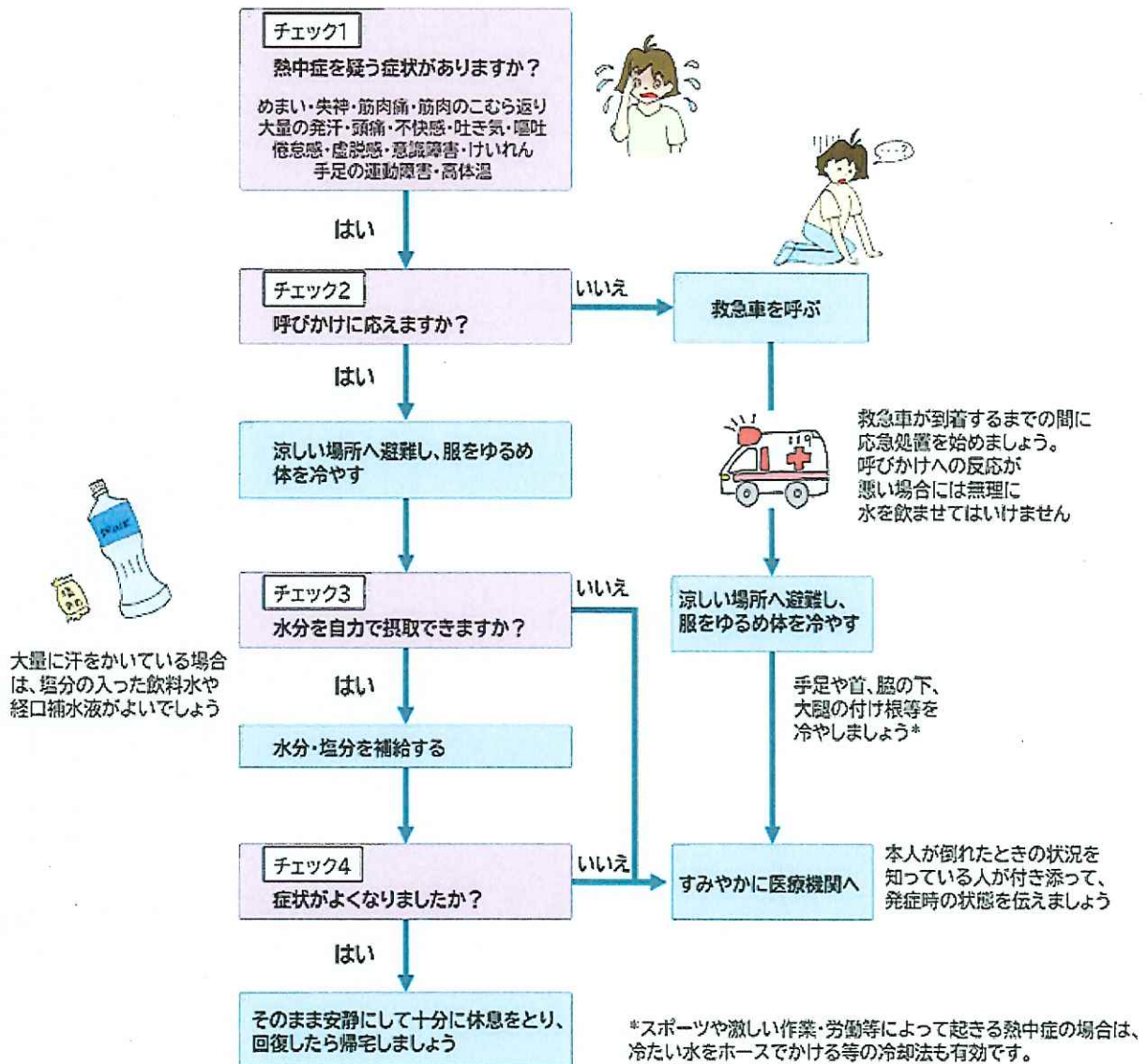


図 5 熱中症の応急処置のフローチャート

II わかふじスポーツ大会開催中の緊急事態発生時の対応

- 1 協会は、緊急事態が発生した場合、人命尊重を第一に考え、大会参加選手や関係者の生命や身体の安全を守るとともに、被害を回避または最小限にとどめるために情報の収集や正確な状況の把握に努め、必要な応急措置体制をとる
- 2 協会は、警察、病院、消防などの関係機関や保護者などの関係者への連絡を的確に行う

《具体的には》

- ・落ち着いて行動する
- ・応急手当を適切に行う（AED 使用も含む）
- ・連絡手順を把握し、必要に応じ救急車の手配や大会参加選手の保護者（引率者）、参加団体など関係者への連絡を迅速に行う
- ・大会参加選手の動揺を防ぎ、二次災害を阻止する
- ・主管競技団体と競技の継続及び中止の検討を行う
- ・事故発生からの対応について時系列で記録する

《地震発生時》

- ・大会会場施設管理者の指示に従って行動する
- ・大会会場施設管理者不在の場合は、競技団体役員と分担し、参加者や会場の安全確認をし、必要に応じて開催会場指定の避難場所に誘導する
- ・誘導の際、自力避難困難者に対する補助者を確認し誘導する
- ・被災参加者等への応急措置を行う
- ・競技団体役員と分担し、参加者等への情報提供や情報伝達支援（災害用伝言ダイヤル(117)の活用等）に従事する

事故が発生した場合の対応（例）

○陸上競技大会中に起きた事故（例）

9月上旬の蒸し暑い日の陸上競技大会。ウォーミングアップを行った後、1500m走へ参加した。700mほど走ったところで急に選手Aのフォームが乱れ、うずくまるようにして倒れた。担当する競技会役員が駆けつけたところ、顔面蒼白で意識を喪失、呼吸及び脈拍がなく危険な状態であった

事故発生からの対応とそのポイント 状況把握とその対応

- 1 当該競技会役員は周囲の競技会役員等に応援を依頼し、その場で傷病者の安全を確保する
 応援者に看護師（待機している場合）及び主管競技団体責任者に連絡を依頼する。必要な場合はAEDの確保を依頼する
- 2 必要に応じて人工呼吸・心肺蘇生を行う
 自己判断により傷病者を移動させない
- 3 看護師及び主管競技団体責任者が現場到着後、端的に報告をする。その後

- 4 主管競技団体責任者は保護者（引率者）へ連絡をするよう指示する
- 5 傷病者の移動が必要な場合は、複数人で対応する。体位、保温、環境の整備について配慮する。意識の有無などの状況を迅速に把握し、心肺蘇生（AEDの使用を含む）や応急手当等をする
- 6 救急車の要請が必要な場合、主管競技団体責任者が要請（119）を行う
- 7 救急車には、主管競技団体の関係者が同乗する
- 8 協会は、主管競技団体責任者から経過について説明をうけ、大会参加選手や関係者の混乱や動揺等二次災害につながらないように必要な対応を行う

この危機管理マニュアルは、主管競技団体・大会参加選手・参加団体や福祉行政担当者等と内容の確認を行い、毎年度見直しを行う

参考·引用文献 等

- ・スポーツ庁「スポーツ活動における熱中症事故の防止について(依頼)」令和8年7月31日
- ・スポーツ庁「スポーツ活動における熱中症事故の防止について(依頼)」令和8年4月28日
- ・スポーツ庁「運動・スポーツにおける安全対策の評価・改善のためのガイドライン(施行版)」
- ・公益財団法人日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」第6版
- ・公益財団法人日本パラスポーツ協会「パラアスリートのための熱中症予防Q&A」
- ・厚生労働省「障害のある方の熱中症予防ポイント」
- ・厚生労働省「知っておこう！熱中症予防のために」(知的・発達障害の方)(手足・体幹に障害のある方(特に車いすを利用する方))(視覚障害の方)
- ・公益財団法人日本陸上競技連盟「安全対策ガイドライン」
- ・公益財団法人日本サッカー協会「熱中症対策ガイドライン」2024年5月21日
- ・環境省 夏季のイベントにおける「熱中症対策ガイドライン2020」
- ・環境省 「熱中症環境保健マニュアル～総論～」2025年7月版
- ・環境省 「熱中症予防情報サイト」
- ・わた SHIGA 輝く国スポ・障スポにおける熱中症対策ガイドライン
- ・第30回日本ID陸上競技選手権大会(兼)パラ陸上競技記録会「開催要項」「暑熱環境下における対応とご協力をお願い」
- ・公益財団法人日本水泳連盟「水泳競技における熱中症対策ガイドライン」Ver1.4(2025.05.08)
- ・気象庁「急な大雨や雷・竜巻から身を守ろう」
- ・気象庁「急な大雨・雷・竜巻－ナウキャストの利用と防災－」
- ・公益財団法人日本サッカー協会「サッカー活動中における落雷事故防止対策について」
- ・静岡県HP「令和6年4月以降の新型コロナウイルス感染症への対応について」
- ・公益財団法人日本スポーツ協会「スポーツリスクマネジメントの実践－スポーツ事故の防止と法的責任－」

第27回静岡県障害者スポーツ大会「わかふじスポーツ大会」AED・一次避難について

実施競技、大会期日及び会場

開催日	競技	会場	障害区分			AED設置場所	避難場所
			身体	知的	精神		
9月21日(月祝)	卓球	島田市ローズアリーナ	○	○	○	1階受付、2階、3階	多目的広場
10月4日(日)	アーチェリー	小笠山総合運動公園 多目的運動広場	○	○	○	人工芝ピッチ事務所	アリーナ外 エントランス広場
	ソフトボール	小笠山総合運動公園 グラウンド		○			
	フットソフトボール	小笠山総合運動公園 グラウンド		○			
	バレーボール	静岡市北部体育館	○	○	○	事務所	体育館外
10月17日(土)	バスケットボール	エコパアリーナ		○		アリーナ事務所 南ロビー サブアリーナロビー	アリーナ外 エントランス広場
	車いすバスケットボール		○				
	電動車椅子サッカー	エコパサブアリーナ	○				
11月8日(日)	陸上競技	草薙総合運動場 陸上競技場	○	○	○	競技場ロビー	補助競技場
11月15日(日)	水泳	静岡県富士水泳場	○	○	○	指導員室8番、 医務室、トレーニング室	大淵第一小学校
11月22日(日)	フライングディスク	草薙総合運動場 陸上競技場	○	○	○	競技場ロビー	補助競技場
12月6日(日)	ボウリング	ヤングランドボウル	○	○	○	フロント	1階駐車場
12月20日(日)	ブラインドベースボール	小笠山総合運動公園 グラウンド	○			人工芝ピッチ事務所	アリーナ外 エントランス広場
	サッカー	小笠山総合運動公園 人工芝グラウンド他		○			
2月23日(火祝)	ボッチャ	静岡市中央体育館	○	○	○	事務所前	葵小学校